

第一日曜日  
教会学校 9:00～  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日  
教会学校 9:00～  
聖書を読む会 9:00～  
主日礼拝 10:30～

# 日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 5. 13

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会  
毎週水曜日 10:30～  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

「いつまでも主と共にいる」  
(テサロニケの信徒への手紙一 「八」)

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第四章一三～一八

兄弟たち、既に眠りについた人たちについては、希望を持たないほかの人々のように嘆き悲しまないために、ぜひ次のことを知っておいてほしい。イエスが死んで復活されたこと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してください。主の言葉に基づいて次のことを伝えたい。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声がかけて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになりまします。ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。

(新共同訳聖書)

「先に死んだ人たちはどうなってしまうのですか。こういう問いが、切実なものとしてパウロに届いていました。テサロニケ教会ができてまだ間もない時期、キリスト教そのものの歴史も、まだ始まったばかりという時期のことです。

教会の信者たちは、入信したためにふりかかってくる艱難辛苦を経験しながらも、主イエス・キリストの「再臨」に近いことを信じていました。十字架よりも前からご自分でおっしゃっていたように、イエス様は再び来られる。ただし、今度は世界の片隅の馬小屋でひっそりと赤ちゃんとしてみられる、という仕方であられるのではない。天使

たちを引き連れ、栄光に輝き、雲に乗って来られる。地上のどの人にも、ひと目でキリストが来られたのだと分かる。

その時、神の御国、神のご支配が完成する。公平で正しい神の審判がくだされる。キリストを信じて、最後まで耐え忍んだ者は救われる。わたしたちが忠実に働いてきたならば、キリストが「忠実な良い僕だ、よくやった。」と迎えてくださり、わたしたちを祝宴へと招いてくださる。大団体のようなイメージで、聖書では語られています。主が再び来られる。それは昔も今も、試練の中でキリスト者を支える希望です。ただ、初期の信者たちの中には、「再臨」は自分たちが生きてある間に実現する、と思っていた人が少なくありませんでした。それゆえ、「最後まで忠実に耐え忍ぶ」ということは、主が来られる日まで、まず何はともあれ、生き残っていなければならぬ、ということであるように思われたのです。

もちろん、迫害の中で殉教して命を落としたような人については、再臨まで生き残れなかったと言っても、忠実な僕として報われるだろうと期待できました。しかし、ただ病死してしまった信者の場合はどうなのでしょう。主イエスが来られるまで待っていることができなかったあの兄弟、この姉妹は、御国から取り残されてしまうのでしょうか。わたしも、もし今死んでしまったら…。

「既に眠りについた人たち」についてこのように不安にかられるテサロニケの信徒たちに、パウロは主イエスの復活を指し示して安心させました。十字架から三日目の主イエスの復活と、その主イエスを信じるわたしたち自身の復活とを、しっかりと結び付けて示したのです。「イエスが死んで復活されたこと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいませ。」

先に死んでしまったからと言って、「イエスを信じて眠りについた人たち」「キリストに結ばれて死んだ人たち」を主がお忘れになるようなことは決してない。よしんばわたしたちが、主が来ら

れる日まで生き残ったとしても、それだけのことでわたしたちが優遇されたりはしない。あなたがたが余計な心配をしないようにあえて言うならば、主は生き残ったわたしたちよりむしろ、先に眠りについた人たちを優先して復活させてくださるほどである。パウロはそう励ましました。

「合図の号令がかかり、大天使の声がかけて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。…わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。…パウロの信仰的な想像力もここでは働いています。主イエスが来られる時には、細部に至るまですべて、ここに書かれている通りの順序と仕方で起こる、というわけでは必ずしもないと思います。こうした描写は、当時ユダヤ人の間で流行した「黙示文学」「終末のもの」とでも言いましょうか、そういうジャンルの書き物によく見られるものだから、パウロもそういうイメージを駆使しながら、キリストの再臨を描いたでしょう。

しかし、本質的なことについては、パウロが勝手に作り話をしたわけではありません。「主の言葉に基づいて次のことを伝えたい」と彼が重々しく書いた通りです。主イエスが仰せになったことに基づくならば、イエス様を信じた、キリストに結ばれた、その絆は、死によっても断ち切られたいしないということです。早逝したか、長寿を全うしたか、そういうことが主イエスとの関係の濃淡を表すのではないし、まして主イエスとの関係を左右するものではありません。

本質的で確かなことは、神は主イエスの復活に働いた御力を、主イエスを信じて地上の命を終える信者にも及ぼしてくださること。だからわたしたちは、生きていても死ぬ時も、いつまでも、主と共にいることができる、主イエスに愛され、守られているということです。

この世の命の終わりを、特に愛する者の死を、嘆き悲しまない者などおりません。当然です。しかし、主イエスの言葉を信じるならば、それでもわたしたちには、希望があるのです。

# チャレンジ

高橋 優美子

「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。」

ヘブライ人への手紙一章八節

「久布白落実」の名前を知っていますか。初めてこの人の名前を知ったのは二十代の頃に読んだ小さな文章でした。後から、徳富蘇峰・蘆花の姪であることや「婦人矯風会」での廃娼運動を行った社会活動家であることなどを知りました。私が心惹かれたのは、日本基督教団での正教師試験(牧師)に八十四歳で合格したということを知ったことでした。

生まれたのが、一八八二〜一九七二とありますから八十九歳の人生です。牧師としての働きは五年間となります。

人生も晩年になり、それまでも十分に働き働きをしていると思われましたし、今まで通り、伝道師としての立場や働きのままでも良いとも思います。そのままでいいませんでした。落実を、そうまでさせたのは何だったのでしょうか、興味を覚えました。そして、八十四歳で教団正教師試験(牧師)に挑戦し合格するのです。八十歳を過ぎて合格するための「神学」の勉強をしたのかと驚きでした。その時、二十代の自分には牧師になることの意味などは、考えられませんでした。気がかされました。

何かを始めるのに遅すぎることなどなく年齢は関係ないのだ!と思わされる勇気を与えられた話との出会いでした。

思えば高齢でのスタートの話は聖書の中

にもありました。旧約聖書の信仰の父といわれるアブラハムです。

まだアブラムといわれていた時のことです。主なる神からの呼びかけに応じ、ハラシを出発したのはアブラムが七十五歳でした。今よりも平均年齢がずっと短かった時代、いつ人生が終わってもおかしくない時期に主からの招きにに応じての旅立ちです。

七十五年間も慣れ親しんだ場所を離れ、まだ、見たこと行ったことのない場所へ行くのに家族を連れての出発にきつと迷いや不安がないわけがありません。そして、旅の途中では、後から信仰の父といわれるほどの信仰者であるアブラハムであっても、失敗だってします。

神の求めに応じての出発ですが、最初からうまく行つたわけでもないことに、なぜか安心します。一回だけでなく二回も、時の権力者である、人を恐れて奥さんのサラを妹というのです。何か、アブラハムも失敗や欠けたところがある人であることで、身近に感じました。

若ければ失敗も取り返せるが、年齢が高くなると失敗ができないと思ひ、スタートを踏み切れないことがあります。そんな時、背中を押す話でした。主の導きと憐みにより、私自身今この場所で学ばせて頂いています。まだ札幌にいる時の上京をためらうような、気弱な時に、アブラハムや久布白落実が背中を押してもらったのでした。

皆さんは始めてみたいことがありますか? 年齢や環境を考えて立ち止まっています。それはありませんか?

新緑が芽吹く美しい季節となりました。新年度、新しい何かを始めてみませんか? 年齢? 続くか心配? 失敗?

八十四歳で牧師になった信仰の先輩がいるのですから大丈夫です。

# 報告

\* 四月一日(日) 復活日礼拝の後、多磨霊園内教会墓地にて、墓前礼拝を捧げました。当日、木村瑠璃子姉の納骨を行いました。

\* 南部坂幼稚園では、十日(火)に進級式、十一日(水)に入園式が行われ、新年度が始まりました。総務(非常勤)の中島聡子氏は、転居のため三月末をもって退職されました。四月より町野愛佳氏が常勤職員として着任されました。

\* 四月二十九日(日)、定期教会総会が開かれ、全ての議案が承認・可決されました。また、次の方々が新年度の役員に選出されました。大司宣子、菊池才知子、北川恵、佐藤忠昭、佐柳理久、宍戸信次郎(敬称略)。役員の方々の為にお祈りください。

\* 各献金(熊本・大分地震被災教会支援献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を、引き続き宜しくお願いします。

## 《各部報告 四月度》

### 成人会

日時 四月十五日 主日礼拝後  
場所 会堂会議室  
出席者 八名  
開会祈祷 水沼和子姉  
内容  
新年度の始めに哀歌全五編の詩を読む。哀歌は詩であり、祈りである。この祈りの背景にあるのは神の民が経験した歴史上最大の悲劇、エルサレム陥落とバビロン捕囚である。哀歌はこのユダヤ最大の悲劇を目撃した者の視点で描かれている。完膚無きまでに破壊し尽くされ、かつての栄光など見る影もない哀れなエルサレム。神の仰せに耳を貸そうとしなかつた民の破壊と喪失を嘆き悲しむ痛恨の祈り。神を見失った民が神に憐れみを乞う祈り。神が求めたのは正にこうした打ち砕かれた霊。打ち砕かれた悔いる心からの祈りだった。こうして捧げられた祈りによって神はイザヤにあの五十三章の預言を託したのでないだろうか。次回より十二の小預言書を読んでいく。

### 婦人会

日時 四月二十二日 主日礼拝後  
場所 会堂会議室  
出席者 七名  
開会祈祷 菊池才知子姉  
閉会祈祷 全員順次小祈禱  
内容  
一、聖書研究「ヨシユア記」十、十一、十二章  
二章 戦闘記 ヨシユア率いるイスラエルは神が命じられた通り、神の敵を滅ぼし尽くした。神の言葉に従わなかつた場合、どうなるかを述べている。ギブオン(訓)に学び、神の言葉に従って戦つたので、二度と同じ失敗をしなかつた。アモリ人カナン地方に住んでいた諸部族の総称である。異教を奉じイスラエルの神に敵対するカナンの先住民を滅ぼし尽くして神に奉げることを実行したので、神はカナンの地をイスラエルに与えられた。意図的なフィクションと思われる。

次回 五月二十七日「ヨシユア記」十三〜十七章から抜粋を学ぶこととする。  
二、佐藤マリエ姉による詳細な婦人会会計報告  
三、その他、情報交換